

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392900052		
法人名	(株)サカイ		
事業所名	グループホームあじさい「みゆき」(1階)		
所在地	刈谷市御幸町四丁目212番地		
自己評価作成日	平成26年9月29日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2392900052-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年10月15日(水)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①居心地の良い雰囲気作り(接遇・環境)を心がけている。②地域との繋がりを大切にす。たとえば、近隣の介護事業所とのイベント参加を通じて交流を図っている。③1人1人の要望を聞き、適時機会を設けて、職員体制の無理のない状況で対応し生活を楽しめるような支援を心がけている。たとえば、移動販売「野田安」様が施設のロビーにお菓子等の商品を並べ、買い物にあまりいけない方にその機会を提供して楽しんでいただいている。また、訪問理美容も来て頂き、美容のたしなみをして頂き、いきいきとした生活を送って頂ける様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人が県内に複数の介護事業所を運営しており、管理者の会議や研修が定期的に行われている他、法人の職員によるホーム管理者や職員へのサポートも行われており、職員の働きやすい環境と資質向上につながる取り組みが行われている。一方で、ホーム独自の取り組みも行われており、利用者がお金を使って買い物を楽しんでほしいという思いから、地域で店を開いていた方の協力を得て、ホームに移動販売に来てもらう取り組みを継続しており、利用者の楽しみにもなっている。ホームの庭の畑には、畑の手入れが好きな利用者と一緒に野菜を育てており、ときに食卓にのぼることもある。また、運営推進会議の際には、プロジェクターを利用して写真を活用して日頃の生活状況を報告しており、出席者にホームでの様子を分かりやすく伝えるような取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を常に職員の目の触れる場所に掲示しており、理念に近づけるよう努力している。	法人の理念でもある目的6項目をホームの基本理念としており、職員は朝礼時に唱和を行っており、理念の共有につなげている。また、開設に際に合わせてホーム独自の理念もつくっており、事務室に掲示している。	ホーム独自の理念について、現状、職員に浸透していない点がある。開設時の管理者から交代し、新しい体制に移行していることもあるため、ホーム理念の振り返りにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設3年が経ち、地域にホームがある事を周知して頂いている。組長様からの地域行事の案内を頂き、利用者と共に行事(地区の盆踊り、万燈祭等)に参加させていただいている。	町内会に入っており、地域の清掃活動や敬老会等の行事の案内をもらい参加につながるよう取り組んでいる。また、地域のお店の協力を得ながら、ホームに出張販売が行われており、交流につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の介護事業所(DSふるさと)との交流(春の田楽祭等)をしている。また地域に散歩、買い物にでかけ、こちらから積極的に挨拶するように心掛けており、近所ではなじみある存在となりつつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に実施する運営推進会議には組長様・民生委員様・地域包括様・ご家族様・市職員に参加いただき情報交換している。	会議には、複数の地域の方の参加が得られており、プロジェクターを利用しながら写真で日常の様子を報告している。また、会議内容は家族にも報告されており、ホームへの理解を得てもらうようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回運営推進会議の案内をだし、会議に参加助言をいただいている。適宜、直接出向いたり電話で連絡・報告等している。	市の講習会等の際には、ホームからも職員が参加するように努め情報交換の機会としている。また、市の介護相談員の訪問が得られている他、介護相談員の報告会にも出席しており、意見交換等につなげておる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間のホーム玄関施錠以外は特にしていない。身体拘束をしないケアは継続して徹底出来ている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関やユニットの入り口に施錠を行っていない。ユニット入り口には、風鈴を取り付けており、さりげない見守りを行っている。また、法人では研修会が行われており、管理者が得た情報等は、職員にも伝えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社での定期的な社内研修を中心に、事例(ヒヤリハット等)も交えて新人から中堅職員まで常に学ぶ機会があり、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社での新人研修。中堅職員研修等で常に学ぶ機会がある。また実際当ホームで2名の入居者様が成年後見制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は十分な時間を設けて説明をし、理解いただくよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱、ご要望ボックスの設置。アンケートハガキの配布。運営推進会議に参加いただきご意見・ご要望をお聞きしている。	主に春と秋に開催している行事を通じた家族との交流に取り組んでいる。玄関には、意見箱を設置しており、意見や要望等の把握に取り組んでいる。また、毎月ホーム便りを発行しており、便りにはメッセージカードや写真を添えて日常の様子を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議・ブロック会議等を毎月開催しており、現場からの意見を会社に伝えられる環境にある。	毎月ユニット会議を行っており、意見や要望等は、管理者やリーダーが出席している法人の会議等にも伝えられ、運営への反映につなげている。また、法人の職員が、必要に応じてホーム管理者をサポートしており、円滑な運営につなげている。	ホームの新たな取り組みとして、職員への面談の機会をつくる取り組みを始めている。職員が前向きな気持ちで継続できるように、今後の運営への反映に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップの取り組みに対する助言・支援をしてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の研修以外にも地域で主催される研修の情報を提供されている。またリーダー・管理者により個々の職員に仕事の中で常に指導がなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流が出来ている。また市内のグループホームと運営推進会議の相互参加や行事案内・出席が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居される方には、全ての職員が情報を共有する為に、アセスメントの確認・サービス担当者会議を開催している。入居後は小さな「気付き」も記録に残し、ご本人様との信頼関係に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より管理者が主になり、ご家族様との関係作りに努めている。入居後は面会の際にご本人様のご様子をお伝えし安心していただく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の聞き取り・アセスメント等にて、福祉用具の必要性等助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をしているんだと思っていただけるよう、家事をいっしょにしたり、お茶や食事の時間を共有している。また利用者様の得意分野を見つけ残された能力に気づくように努めている。また利用者様から逆に励ましの言葉を頂き、対等な立場を意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度「メッセージカード」と写真をご家族様に送り、ホームでの様子を知っていただいている。各種行事の参加も呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には家から馴染みの家具・寝具・衣服等を持ち込んでいただく様助言している。又居室にはご家族やお好きだったペットの写真飾り一人で過ごす空間を安らげるように心がけている。	利用者へのアセスメントを通じて、かつての特技を思い出してそれをホームで行うことで、改めて家族との交流につながった方がいる。また、利用者の友人の訪問や家族との食事や買い物に出かけたり、利用者の故郷に家族と遠出に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に家事やTVなど憩いの時間の時に、一緒にソファに腰かけ、自然なお話が交わされるように心掛け、馴染みの関係が築けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、次に関わる事業所(または医療機関等)にご本人にとって必要な情報を家族様同意のもと提供し、途切れなく円滑なご支援が提供されるようにさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは、ご本人の意向をきき、それに沿ったケアプランを立てる事から始め、日々の生活の中で上がってくる要望を確認しながら、思いを汲み取るようにお話を聞きとる時間を持ちます。	職員は、毎月の便りとしてのメッセージカードの作成や個人別のノートへの記載を通じて、一人ひとりの把握に取り組んでいる。また、カンファレンスについては、毎月のユニット会議の中で行っているが、変化が見られる際には随時行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取り・アセスメント等にて、把握し、さらにその後の日常の生活の会話等の中で、ご本人の今までの人生をお聞きとりする機会を頂き、馴染みの暮らし方等をうかがい知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の聞き取り・アセスメント等にて、把握し 毎日の生活の中でも様子観察し 情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・ケースカンファレンスを実施する中で、介護スタッフ・提携医・看護師からの意見を反映させ、またご家族様への介護計画への要望などを聞き介護計画を作成している。	介護計画は、基本3か月毎に見直しており、変化に応じた随時の見直しも行われている。職員が介護計画の内容に関する毎日のチェック記録を残しながら変化の把握につなげており、計画作成担当者が3か月毎のモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・各種チェックシート・個別記録ノート等の記録をし常に情報共有をしている。又申送りの時間を設け情報共有に務めている。モニタリングには各種記録を参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科医等への受診付き添い、訪問マッサージ利用の助言・手続きを実施している。また、中々買い物等に行ける機会が少ない方に対し、訪問販売を依頼して、定期的に買い物の楽しさを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事(溝掃除、祭り、盆踊り等)開催日時・公共施設・公園・商業施設を把握し、外出を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時以外にも必要に応じ、かかりつけ医と連携を図り、緊急時には電話にて連絡がつくようにして頂いており、適切な受診、相談・助言を適時頂いている。	協力医による定期的な訪問が行われており、現状、全員の方がホーム協力医をかかりつけ医としている。受診は、基本、家族対応であるが、ホームも受診支援や情報提供等の支援を行っている。また、週1日、看護師が勤務しており、健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の往診内容等の情報も含めて、確認いただき、週一回定期的な看護師の訪問で健康管理をしていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のご様子を把握し、退院時には入院中の情報収集・退院後の助言指示を医療機関より直接・文面でいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そのつど、ご家族にホームでできる事・出来ない事を説明させていただいている。現在は食事摂取量が低下されている方に対し、かかりつけ医の指示のも食欲不振の原因究明や食事形態の工夫に取り組んでいる。	現状は、ホームでの看取り支援は行われていないが、方針としては前向きな考えを持っており、家族とも重度化に関する話し合いを行っている。また、法人の関連ホームとの研修の機会があるが、ホーム職員へのサポート等については、今後のテーマでもある。	法人で複数の関連ホームの事例があるため、職員が事例を学ぶ機会をつくりながら、看取りを見据えた支援について、ホームでの前向きな取り組みが行われていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員研修での研修・マニュアル作成し取得に努めています。緊急搬送要請時にすぐに目にできるよう、マニュアルの提示、救急隊員に利用情報を速やかに提供できるためのシートを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員研修での研修。マニュアル作成・年2回の防災訓練の実施。	訓練を年2回行っており、消火器の使用法に関する確認も行われている。地域の方との関係についても、地域の災害訓練の案内をいただく等、協力的な関係でもある。また、太陽光発電の設置や水・食料等の備蓄品も確保されている。	現状、夜間を想定した訓練が充分に行われていないため、職員が少なくなる時間を想定した訓練の実施に期待したい。また、ホームの現状を地域の方にも知ってもらい取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格や暮されてきた生活環境などを出来る限り把握し、その方にとって何が大切かをかんがえながら、日ごろの支援を行っている。	職員による利用者への対応については、管理者より注意喚起が行われている他、法人が行う研修内容にも盛り込まれている。また、言葉遣いについても、ヒヤリハットや事故報告の検討を行う際に、注意を促すように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で、必ず「○○はいかがでしょう？ 他にご希望はありますか？」と言ったご本人本位の確認の仕方を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇の時間を設け、個室で昼寝をされる方、リビングでテレビを観る方などできる限りその方のペースを尊重して自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みの洋服を着ていただける様支援している。今後化粧をする機会を作っていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を買う・食材に日付けの書いたメモを貼る・食事の準備、盛り付けをする・食器を洗う拭く等、その方の出来る事を手伝っていただいている。毎日一日のメニューを記入し目に見える所に掲示している。時にリクエストを受けながら献立に挙げる。	メニューは、利用者のリクエストメニューの日も設けている。買い物をはじめ、調理や片付け等の際には、利用者も出来ることに参加している。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている他、ミキサーや刻み等の食事形態の提供にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのいい食事が摂れるような献立や、食事(水分)摂取量を常に把握し記録している。食事(水分)形態もその方の状態に合わせ、粥・刻み・とろみなど 配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自分でしっかりできない方は仕上げの支援をしている。スポンジブラシ使用等本人に合った口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況・パターンをアセスメントし、排泄介助を実施している。排泄チェック表を利用し常に職員が排泄状況を把握し介助できている。	利用者の排泄状態に合わせて排泄チェックが行われており、昼間と夜間でパッドやオムツ類を使い分けながら、日中の時間はトイレで排泄できる取り組みが行われている。また、毎日のラジオ体操の実施や医師とも連携した排泄管理等にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し何日も排便の無い方は医師の指示により緩下剤の服用等で排便管理をしている。時折ヨーグルトを摂取し整腸にも心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間は午後からとさせていただいているが、ご本人の要望や汚染時には適宜入浴を実施している。	基本1日おきの午後の時間であるが、入浴回数等の希望に合わせた入浴にも対応するように取り組んでいる。重度の方については職員複数で介助し、週3回の入浴につなげている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず、また、夜間眠れずリビングで職員と過ごされる方もいる。日中も自由に居室に行かれ1人で休息される方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切に服薬できる様その都度、職員間で情報交換している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1年の行事予定・毎月の行事予定を計画し楽しく過ごして頂ける様努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員状況によって、異なるができる限りその方の要望を聞きとり、対応できる時には積極的に外出支援を行っている。	ホームでは、日常的な外出支援に取り組んでおり、重度の方についても近隣の公園や近所の喫茶店等に出かけるように取り組んでいる。また、季節に合わせた花見や初詣をはじめ、おにぎりを持って公園等へ外出する取り組みも行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、外出、月2回の訪問販売時には理解できる方は、お金を持っていただき支払いをする機会を持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要求があればご家族様へ電話を支援している。また年賀状や暑中見舞い等をご家族様に出す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の掃除を徹底しいつも清潔な環境の中で過ごしていただける様心がけている。玄関やリビングに花も飾られている。	ホームのリビングは、ゆったりとした空間が確保されている他、居室に続く通路が広く設計されているため、車椅子の方も移動が容易である。また、通路の壁には、行事の写真が掲示されており、利用者の日頃の様子が伝わるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳コーナーが設けられており、ソファーに自由に座ってすごされている。冬季にはコタツを出し皆さんですごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置かれたり、家族・ペットの写真が飾られており、精神的に落ち着く空間作りに留意している。	居室には、利用者の馴染みの家具や鏡台等の品々や囲碁やお茶の道具等の趣味の物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族の写真を飾っている方もおり、落ち着きのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーとなっており手摺、玄関にはスロープが設けられている。2階建てでありエレベーターが設置されているが、歩行可能な方には職員の付き添いにて階段の昇降もしていただき筋力維持につながっている。		